



未来にいがた
10月16日 街頭県政報告



行政視察

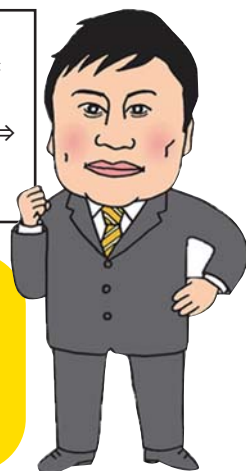


県政報告会

小島すすむ県議会議員の主な活動

2020年			
4月30日	会派(未来にいがた) 新型コロナウイルス感染症対策知事要望	9月16日	新総合交通・防災対策特別委員会
5月20日	新総合交通・防災対策特別委員会	9月29日～	9月定例会
6月16日～	6月定例会	10月16日～	会派(未来にいがた)街頭県政報告(新潟駅前)
7月3日	会派(未来にいがた)街頭県政報告(新潟駅前)	10月20日	県政報告会(山谷二・三丁目公会堂)
7月6日	新潟県都市計画審議会	10月24日	県政報告会(金津コミュニティセンター)
7月17日	県議会常任委員会	10月25日	県政報告会(荻川コミュニティセンター)
7月29日～	会派(未来にいがた) 県内視察(新潟市、弥彦村、燕市、三条市)	10月26日～	企業会計決算審査特別委員会
8月4日	原子力防災訓練(柏崎市)	11月7日	県政報告会(小須戸まちづくりセンター)
9月8日	産業経済委員会県内視察(秋葉区)		
9月9日～	建設公安委員会県内視察 (新潟市、上越市、妙高市、柏崎市)		
9月14日～	会派(未来にいがた) 県内視察(新潟市、胎内市、村上市、聖籠町)		

○議会議事録は、
新潟県のホームページ
から検索できます。
新潟県ホームページ ⇒
新潟県議会 ⇒
会議録の検索と閲覧



皆さまのご意見をお寄せください。

◆小島すすむ事務所◆ 〒956-0032 新潟市秋葉区南町 9-1

TEL/FAX 0250-25-3400 E-mail info@kojima-susumu.jp

ホームページ <https://kojima-susumu.jp> face book 「小島すすむ事務所」

自宅 〒956-0806 新潟市秋葉区みそら野2丁目4-12 TEL/FAX 0250-23-0155

*この議会報告の発行には政務活動費を使用しています。

県政報告

小島すすむ

2020年秋冬号
新潟県議会報告
(新潟市秋葉区)

発行 小島すすむ事務所
新潟市秋葉区南町9-1
TEL・FAX 0250-25-3400

ごあいさつ

新潟県議会9月定例会で新型コロナウイルス感染症緊急対策として約880億円の補正予算が可決されました。これは、検査体制の強化と感染の早期発見、医療提供体制等の強化など感染症拡大防止対策と医療提供体制の強化を図るとともに、事業継続に困っている中小・小規模事業者への支援、雇用の維持や生活に困っている世帯や個人への支援など社会経済活動の維持の両立に加え、産業のデジタル化の推進などが主なものです。しかし今年度の県の税収は当初予算から200億円程度の減額が予想されるなど今後も厳しい財政状況となりますが、感染症拡大防止対策をはじめ県民の安心安全に時期を逸することなく政策実現に取り組んでまいります。

この度の質問は所管である交通政策の佐渡汽船の小木直江津航路、高速カーフェリー「あかね」の売却問題について知事に質問を致しました。県は佐渡汽船の筆頭株主としての立場と島民生活及び観光振興の両面から欠かす事のできない佐渡航路の維持・確保を求める行政立場と両面があり、この事に対し知事の所見を確認したものです。

『新型コロナウイルス感染症がいまなお続くなか、インフルエンザの流行時期を向かえようとしています。県もインフルエンザ対策事業も盛り込んだところですが、まずは私たちがやれるマスクの着用・小まめな手洗い・うがいなどの対策を行う事が大切です。これから寒い時期を迎えますがくれぐれも体調を崩さないようご自愛下さい。』

新潟県議会議員 小島すすむ



令和2年9月定例会 連合委員会質問(10月12日)



- 会 派：未来にいがた
- 常任委員会：建設公安委員会
- 特別委員会：新総合交通・防災対策特別委員会

9月定例会 連合委員会質問(抜粋)

1. 佐渡汽船 小木直江津航路について

質問 船舶専門誌でも双胴船の大きな欠点として横波中の短周期の横揺れが指摘されるなど、船舶関係者なら一般的である双胴船の横揺れの欠点を十分承知の上で佐渡汽船は「あかね」導入を決めたと考えるが、結果として、船酔いが酷く、欠航率がフェリーの約4倍となるなどその欠点が輸送人員に影響を及ぼし、「あかね」導入後5年での売却の方針となったと考える。筆頭株主である県として、最善策として購入した「あかね」を5年で売却することに至った佐渡汽船の経営責任についてどの様を考えるのか伺うとともに、今後佐渡汽船に対しどの様に対応していくのか伺う。

答弁 「あかね」を含む、船舶の導入については、佐渡汽船が経営判断に基づき、責任をもって行っているものと認識している。

現在、佐渡汽船では、会長が役員報酬を全額辞退しており、また、業績悪化に伴い、取締役の役員報酬の減額を実施していると承知している。

県としては、安定的な佐渡航路の維持確保に向け、佐渡汽船に対し、抜本的な経営改善を行うよう求めている。

質問 「あかね」導入において、輸送人員の見込みや、修繕費、燃料費の計画が実績とことごとく大きく乖離した事が、会社経営を圧迫した原因となっている。この事から佐渡汽船（取締役）が*1 善管注意義務に反していなかったのか伺う。

*1 業務を委任された人の職業や専門家としての能力、社会的地位などから考えて通常期待される注意義務。

答弁 「あかね」導入にあたり、佐渡汽船では、同種の船舶の視察調査や、造船所からの技術提案を比較検討するなど、一定の確認は行っており、明らかに善管注意義務違反があったとは言えないものの、航路収支に対する見通しなどが甘かったのではないかと考えている。

指摘のとおり、輸送人員や、修繕費、燃料費の実績が計画と大きく乖離し、会社経営を圧迫していることから、今後の船舶導入などの投資判断にあたっては、より慎重な検討や判断を行うよう佐渡汽船に要請していく。



質問 「あかね」導入は、北陸新幹線開通により小木直江津航路を利用した観光客の増加や、運航経費の削減が大きな理由であったが、結果として経営を圧迫した原因となっている。建設公安委員会では「今後の船舶導入にあたっては、より慎重な検討を求めていく必要がある」との答弁だったが、税金を投入する以上、「『あかね』選定は佐渡汽船の経営上の判断であり、県は関与していない。」では済まされない。運航経費に対する赤字補填12億円がわずか5年間で枯渇し、更に「あかね」を売却するなど、これまで税金を投入した目的が達成されていないと考えるが認識を伺うとともに、今後の船舶導入に係る県の考えについて伺う。

答弁 「あかね」導入時、県といたしましては、小木直江津航路の赤字補填を行うことにより、航路の維持確保に努めることとしたが、「あかね」が期待された役割を十分に果たしていないことから、支援が航路の充実に結びつかなかったと認識している。

今後の佐渡汽船の船舶導入については、船舶の選定等は、航路事業者が専門的見地などから、経営判断に基づいて行すべきものとするが、県としても、当該船舶の導入が、佐渡汽船の経営に及ぼす影響や、佐渡航路の安定的な維持確保にどのように資するかなどについて確認していきたい。

質問 知事は代表質問でも、島民生活及び観光振興の両面から欠かす事のできない佐渡航路の維持・確保に向け佐渡汽船が経営改善を円滑に進められるよう、行政支援の必要性も含め、地元市や関係者と協議を行い、適切に対応していきたいと答弁しているが、改めて小木直江津航路の必要性について伺う。

答弁 小木直江津航路の輸送人員は、年間で約12万人となっているが、このうち島民利用は5%程度であり、観光客のウエイトが高く、本県の観光振興等において重要な航路であると認識している。

一方、同航路は、年間の航路収支が約10億円の赤字であり、新潟両津航路の黒字で補っている状況であるなど、佐渡汽船の経営上大きな課題となっている。

県としては、こうした点を踏まえつつ、同航路の維持確保に向け、佐渡汽船の経営改善が円滑に図られるよう、地元市や関係者等と連携して取り組んでまいりたい。



質問 「あかね」は、小木直江津航路の貨物輸送も考慮し高速カーフェリーを導入した。令和元年実績でも自動車航送換算台数で約25,000台、貨物約3,400トンを送送しており、物流運賃だけでも約3億円の収入がある。しかし、ジェットフォイルに切り替えた場合、自動車・貨物輸送ができなくなるが、小木直江津航路の物流の必要性について伺う。

答弁 指摘のとおり、小木直江津航路は相応の物流実績を有しており、自動車航送や貨物輸送は、観光や産業の振興にもつながることから、一定程度必要性はあるものと認識している。

しかしながら、今般、佐渡汽船では、運航コストを削減し、航路及び会社の収支改善を図るため、やむなく、就航船舶を「あかね」からジェットフォイルに変更する方針を示したものと承知している。

質問 小木直江津航路をジェットフォイルに切り替えた場合の試算として、1日2往復、年間稼働日数186日で約5万人が利用し収支を4億円改善するとの事であるが、依然、運航経費は6億円の赤字である。航路を黒字化するには17万人程度の利用がなくてはならず、最大輸送人員18万6,000人に近い数字になると思われる。非現実的な数字であり、今後も小木直江津航路を維持していくためには行政の支援は必要不可欠であると考えますが、今後の支援策について伺う。

答弁 佐渡汽船は上場している民間企業であることから、会社の安定経営に向けては、まずは佐渡汽船自らが運航体制の見直しをはじめとする、更なる経営改善に取り組むことが必要であると認識しており、小木直江津航路の収支改善を進めつつ、佐渡航路全体として、航路を安定的に維持できる経営環境を整えることが重要であるとする。

当然のことながら、佐渡航路は、島民生活及び企業活動や観光振興等の経済面からも欠かすことのできない重要な航路であることから、県としては、地元市とともに、必要な対応を検討していきたい。

*質問内容は紙面の関係で一部抜粋の掲載となっておりますが、新潟県議会ホームページには質問の動画がご覧頂けます。